

会議要旨

会 議 名	甲州市行政改革推進委員会（第1回）
議 題	甲州市行政改革推進委員会委員委嘱式 第1回会議・・・委員会の役割について・行政改革大綱、実施計画について・行政評価制度について・今後のスケジュールについて・その他
開会日時	平成20年7月11日（金）午後1時30分～3時30分
開会場所	甲州市役所本庁舎 第2会議室
出席者名	◎中村委員、○塩野委員、雨宮委員、井上委員、寺沢委員、日原委員、平野委員、三森委員、矢崎委員 事務局 手塚課長、藤枝課長補佐、中村副主幹、小林主査
議 事	
<p>【委嘱式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員紹介 ○ 委嘱状交付 ○ 市長あいさつ ○ 委員自己紹介 <p>【第1回会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事務局 （行政改革推進委員会設置条例について説明した後、会長、副会長の選任の議事に移る。） ○ 委員 事務局案があれば示してほしい。 ○ 事務局 一期の委員も務めており、行政内容にも精通している中村委員に会長をお願いしたい。副会長については、行革の取組項目でもある男女共同参画推進の観点から、市の男女共同参画推進委員会の副委員長である塩野委員を提案する。 ○ 委員 （異議なし。） ○ 会長 図らずも皆さんの賛同を得て会長という大役を受けることとなった。行政改革は現在の地方行政にとって避けて通ることのできないものである。特に財政的に厳しい時代であり、国も三位一体を進めているが実態は非常に厳しい。行政改革を推進していかないと地方行政は成り立たない状況であり、市長の言葉にもあった市民の視点に立って様々な議論を進めていきたい。委員の皆さんのご協力を得ながら会を進めていきたいのでよろしくお願いいたします。 ○ 副会長 行政改革は私たちには難しいもの、というイメージがある。中村会長を中心に取り組んでいきたいのでよろしくお願いいたします。現在、市の男女共同参画推進委員会の副会長の職を担っているが、こうした場に男女共同参画の視点からの意見を取り入れていく必要性を感じている。女性が行政に係わっていく一助になればとの思いもあるのでよろしくお願いいたします。 ○ （市長から会長に諮問書を手渡す。） ○ 会長 ただいまの諮問書の写しを皆さんに渡し、その内容を見ながら今後の議論を進めていきたい。 	

- 市長 ただいま中村会長に諮問させていただいたが、この2年間取り組んできて感じるのは、行政改革は、口で言うのは簡単だが、実行するのは非常に難しいものである。特に市町村合併を経た自治体は難しいが成果は表れてきている。市民が甲州市に住んでいることを実感し、満足が得られるようなまちづくりを進めるための議論をお願いしたい。全国市長会では人口3万の市から300万の市までが同じ土俵で話しているが、課題は財政問題と税源移譲の件で一致している。10年先の道州制の導入も視野に甲州市としてしっかり取り組んでいきたい。(市長退席)
- 会長 それでは議事に入る。委員会の役割について事務局から説明を。
- 事務局 (委員会の役割について運営要領等の説明を行う。)
- 委員 運営要領案の中に委員会における合意について書かれているが、第一期の委員会に参加し意見を出した際、事務局で聞き置くとし、他の委員から意見を聞くといった機会が無かった。今回の運営要領の中には委員会の「合意」の項目があるが、答申そのものに対する合意と解釈するのか、その前の議論における合意と解釈すべきなのか。
- 会長 要領に「協議が整った場合」という表現がある。委員会として皆の意見を聞きながらまとめていくということなのか。
- 事務局 この場で自由に意見を出し合ってもらい、概ねの方向性が見えた段階で合意があったものとしたい。答申についても自由に議論してまとめてほしい。厳しい意見も出ると思うが、その都度会長に判断してもらい、合意の形として一定の方向性を出してもらいたい。
- 委員 全体の空気が異議なしということであれば問題はないが、意見が異なった場合、発言者以外の委員の意見を聞く機会を持ってほしい。
- 会長 そうした場合は、その都度委員に諮りながら委員会としての意見をまとめていきたい。状況により臨機応変に対応していきたい。協議することが基本であり、会としての方向付けをしていくこととする。次に行政改革大綱・実施計画について事務局から説明を。
- 事務局 (行政改革大綱・実施計画について説明する。)
- 会長 本日の資料は、18年度の状況をまとめたものである。次回の会議には19年度の実施事項を示すとのことである。今回は内容についての審議は無い。説明についての質問はあるか。(質疑なし。)次に行政評価制度について事務局から説明を。
- 事務局 (行政評価制度について説明する。)
- 会長 質問等はあるか。(質疑なし。)次に、今後の委員会のスケジュールについて事務局から説明を。
- 事務局 (今後のスケジュールについて説明する。)
- 会長 第4回の委員会が1月に予定されているが、議論した内容が新年度の予算編成に反映されるものと理解してよいか。
- 事務局 そのとおりである。
- 委員 評価制度については、最近、民間企業でも自己評価を行っているところが多

い。行政評価制度は第1次、第2次評価とも内部評価にとどまっているが、ISOなどサービスの国際基準もある中で、外部評価とのマッチングをどのように考えているか知りたい。

- 委員 行政改革大綱・実施計画書の事例について、ポイントを絞って説明願いたい。また、行政評価シートの記載は、もっと具体的な事例を挙げて示した方が分かりやすいと感じた。
- 事務局 外部評価については、将来的には導入したいと考えているが、まずは職員自らが調書を書いて評価することにより、事務事業の見直すべき点に気づくためのツールと考えている。職員が自己評価を行い、制度の運用に慣れてきたところで第三者による評価委員会などを設置し、意見を聞いていく予定である。現状では、この委員会において意見をお聞きしていきたい。行政評価シートについては例として示したものであり、今後、制度導入の支援コンサルタントのチェックを受け、より具体的なものになる予定である。来年度以降は行政評価の進行管理も職員が対応していくことになる。そのために知識と知恵を磨き、マニュアルを作成するなどして継続性を確立していく予定である。今後も市民の視点からご意見を頂きたい。
- 委員 資料に示されたPDCAのうち、Check（現状評価）、Action（改善）が大切である。コンサルタント任せでは今後は大変である。事務事業を評価して、どのように改善するかを議論する項目を入れるべきだと思う。必要性が明らかで予算措置されている事務事業についての改善策を見つけ出していくことが今後のポイントになると思う。
- 会長 その他何かあれば。
- 委員 今後の委員会の開催日程をあらかじめ決定してほしい。
- 事務局 次回開催日のみを決定することによってよろしいか。次回は9月30日の午後開催としたい。
- 委員 3点ほど具体的な話をしたい。職員の姿勢の問題であるが、総務企画部長は会議の冒頭に在席しただけでずっと不在である。今後の会議の際は、毎回出席していただきたい。初年度に色々な計画が示された際、特別職のあり方の中で、「収入役制度は21年度に廃止する」とされており、「それでは遅いのではないか」という意見を出した。当時の総務企画部長は「現任者の任期もある」とのことであった。先月末で収入役が辞めたと聞いたが、当時の答えと違うと思う。本質的に、当時の説明とその後の対応にギャップがあると感じる。また、今回の会議通知には「クーレビズの対応」についても記載があり、親切な対応だと感じた。別の組織のことだが、市長から選任書の交付を受けるための案内通知を受けた。出席の際は「ネクタイ着用」の義務付けが記載されていたにも係わらず、当日は、市長も担当職員もノーネクタイでの対応であった。そうした姿勢には疑問を感じる。全職員が仕事に取り組む姿勢を徹底しなければならないと感じた。6月27日付の山梨日日新聞に甲斐市職員の素早い対応に感謝するという市民の投書が掲載されていた。以前、私が依頼されたある件で職員に対応を依頼したところ「地域のことなので区長が来るように」と言われたことがある。道路、水道、ごみ処理など、地域に関することは何

でも区長経由でないと対応できないのか。甲斐市の例と比較してみると職員の姿勢に大きな違いがみられる。行政改革も職員が一丸となって取り組まなければ達成できないと思う。今年2月に地域で地球温暖化問題について担当課長から話を聞く機会があったが、机上の理論だという発言もあり、具体性が感じられなかった。計画を策定しても職員の認識、やる気がないと前に進まないものである。市役所の職員には、市民が環境問題に取り組む上でのモデルとなっていただきたい。

- 事務局 貴重なご意見をいただいた。職員の姿勢については一つひとつのことにきちんと対応することが大切である。今後は職員の職務に臨む姿勢を改善していきたい。総務企画部長もこの委員会には必ず出席することとしている。本日は急用が出て席を外したがご理解願いたい。
- 委員 市役所には市民からの苦情や相談を受ける総合的な窓口はあるか。その日に起こったことはその日のうちに解決するような仕組みが必要でだと思う。市長への手紙では時間が掛かってしまう。何か起きたらすぐに対応すべきである。
- 委員 合併後の状況の中で行政改革に取り組む職員も大変だと思う。仕事量も増える中できちんとした認識を持って取り組んでほしい。行政改革に取り組んで、職員にどの程度改革意識が定着したか知りたい。
- 事務局 先般、市役所の若手職員を対象に、行政改革の必要性と財政状況の現状について説明する機会があった。その席でアンケートを行ったが、意識改革の必要性など、前向きな意見が多く書かれていた。行政改革と職員意識の改善は徐々に浸透していると感じている。ただし、一人の職員が対応を誤ると全体が悪いように見えてしまうことがあるので、そのようなことがないように対処していきたい。この委員会が出された意見は部局長会議で報告し、そこから職員へ指示が伝わるようにしていく。今後、人事評価制度の中でも取り組んでいくことになるのではないかと思う。
- 会長 行政改革の取り組みに対する実質的な審議は次回の委員会からとなる。事前に配布される資料に目を通したうえで出席願いたい。
- 副会長（閉会のあいさつを行う。）

決定事項等

- ・ 会長に中村猛委員、副会長に塩野洋子委員が就任する。
- ・ 甲州市行政改革推進委員会運営要綱を決定する。
- ・ 次回会議日程は9月30日（火）午後とする。